

平成22年度 学校評価実施報告書

学校番号 9

学校名 千葉県立千葉北高等学校

課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果	改善方策
学校経営	①授業公開により、保護者等の授業参観の機会を提供できたが、ホームページについては更新が十分に行えず、生徒や保護者に必要な情報提供ができなかった。 ②5年間の中期将来計画について、策定委員会を設置し、具体策を検討することができた。 ③学校評価アンケートの授業に関する項目で、職員と生徒及び保護者との結果に大きな差があった。	①ホームページの内容の検討を行うとともに、担当者を決め定期的に更新を行うようにしていく。 ②具体策の検討を進め、実施していく。 ③この差の原因を分析するため、必要により、より詳しいアンケートを実施する。
学習指導	①県教委指導課による「授業力の向上を図る」趣旨の学校訪問があり、授業参観の後、全ての教科について、指導・講評があり、改善点が指摘された。全体会では新学習指導要領の説明がなされた。 ②2・3年次の科目選択において、将来の希望に結びつく説明・選択・決定を行うことができた。 ③授業評価のアンケートでは、ほとんどの教員が授業改善、学習指導の創意・工夫、きめ細かい指導をしていると答えているのに対し、生徒・保護者からは消極的な評価が多く、結果に差が見られた。	①指導課による指導・改善点の指摘を踏まえ、生徒の学習歴を把握した上で、生徒の力量（学ぶ力）を高める授業を展開していく。 ②多岐にわたる生徒の興味・関心に対応するために教科指導を充実させ、進路希望に応じたキャリア教育をベースに学習相談体制を構築する。 ③生徒のアンケートからは、特に家庭学習の少なさが指摘される。長期休業期間だけでなく、学期を通して、適切な時期に適切な内容・量の課題を課していく。
生徒指導	①全体の遅刻者数は減少しているが、1・2年生においては遅刻に増加傾向が見られた。 ②教育相談については、特に保健室、相談室及び担任等が一丸となって適切に対応することができた。 ③人権侵害とも受け取られかねない軽率な言動が、生徒どうしの間でみられるようになってきた。 ④登校指導により、登校時における生徒の状況に改善傾向が見られるようになった。 ⑤制服の正しい着用指導を展開しているが、徹底が不十分であった。	①余裕のある生活を提唱する。（遅刻の多い生徒には、従前どおり早朝登校を課して、生活のリズムの改善を図る。） ②今後も各担当者との連携を密にしながら、生徒の心身の健康育成を図る。 ③自分だけではなく他人の「人権」も考えられるよう「気配り」を提唱する。 ④ゆとりがあれば、通学時のマナーが向上する。「早目の行動」によりゆとりある生活を送るよう、早朝登校を提唱する。 ⑤年度当初に家庭にも呼びかけて、指導の徹底を図る。
キャリア教育	①生徒の進路希望実現に向けてよく努力しているという回答は、教職員70%、保護者64%で、昨年の約20%の差が大きく縮まった。 ②1学年は年3回（10月進路講演会等）、2学年は年3回（12月上級学校模擬授業、3月上級学校ガイダンス等）、3学年は年5回（5月専門学校ガイダンス、8月推薦入試説明会、9月面接ガイダンス等）の進路関係行事をそれぞれ実施し、成果を上げることができた。 ③各種ガイダンス等の有効な対策が取られているという回答は、教職員83%、生徒61%と約20%強の開きがあった。	①進路に関する保護者への情報提供が、徐々に奏効してきているので、プリント等を活用し、さらに連絡を密なものとしていく。 ②上級学校ガイダンス等、学年をまたいで行われるものは、会場の確保やプロジェクターの用意など事前準備を綿密に行う。また、3年間の段階的・継続的な指導が行えるように計画を練り上げていく。 ③生徒はガイダンスの重要さにあまり気づいていないので、事前指導と意識づけに重点を置く。
特別活動	①LHRに計画性があると感じる教職員は昨年の7割程度に比べ5割強と激減した。なおかつ、生徒がHR活動での自分の役割を理解できるかという点についても、昨年の8割強から7割強へと減少した。一方、保護者の8割強がHR活動への肯定的意見を有しており、その認識に差が見られた。 ②リーダー性・自主性を育成しようとする教職員が6割弱と減少した。これに対し、クラスがまとまるように心掛けている生徒は6割強と増加した。このことから、生徒側と教職員側それぞれの意識に隔たりが見られた。 ③各行事への取り組みに関して生徒の8割強、保護者の9割強が肯定的な意見であった。また、教職員も9割が参加を肯定しており、この点で認識が共通していることが明らかになった。	①保護者の期待に応えるべく、LHRの計画的な実施に向けて早急な対応が必要である。自主性・リーダー性を育成するために、生徒自らが運営する基盤はあるので、HR活動の取り組みに対する教職員の意欲を一層高めていく。 ②クラスがまとまるように心掛けている生徒の割合が高くなりつつあるので、周囲の状況を理解できる力の育成と自制心の養成の継続的な指導が必要である。また、HR活動の意義について、生徒と教職員がさらに認識を深めるように努めていく。 ③この状態を維持できるように、学校行事に臨む現在の体制の継続及び強化を図っていく。
特色ある教育活動	①総合的な学習の時間は計画的に運営されており、「国際理解」学習に関して、保護者からは概ね良好な評価を得られた。 ②「国際理解セミナー」の内容についての生徒の感想は極めて良好で、「世界に視野が広がりそうだ」という声が多く聞かれた。 ③10月の授業公開にはのべ33人の参加者があり、本校に対する良好な評価を得ることができた。	①「国際理解」学習に関して、生徒からの評価が相対的に低いことに鑑み、生徒の興味・関心を掌握した上で内容のさらなる充実を図っていく。 ②「国際理解セミナー」は今後も継続するとともに、講師の人選について情報収集に一層努める。 ③授業公開参加者が毎年減少傾向にあるため、実施を周知する方法について検討していく。

学校評価の公表について (手段・時期等)	・学校通信（3月発行）で保護者に公表する。 ・3月15日から、ホームページをアップし、学校評価等を公表する。
-------------------------	---

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学校経営	①ホームページの情報提供対象者を誰にしているかによって、評価が異なってくるので、対象とそれにあった内容を検討してはどうか。 ②可能であればホームページ担当がいるとよいのではないか。 ③特色ある学校づくりについて、保護者と生徒との意識にギャップが見てとれる。	①ホームページの情報提供の対象とそれにあった内容を検討し、ホームページの内容の充実に努める。また、部活動OB会のホームページ等とのリンクについて検討していく。 ②コンピュータ操作に明るい職員を担当につけるとともに、校内における情報の流れを明確にし、担当者の元へ速やかに情報が集まるシステムを構築する。 ③保護者と生徒との意識にギャップが生ずる原因の究明に努めるとともに、情報が共有できるための条件を整える。
学習指導	①教育課程の特色について、生徒・保護者の理解が十分でない。 ②学力向上を目指して、少人数指導や補習授業を導入してはどうか。 ③家庭学習の充実を目指して、学校として工夫を凝らしてほしい。 ④安易な推薦入試やAO入試を避ける指導が必要である。	①生徒・保護者向けの情報提供を積極的に行い、教育課程の理念とその特色を十分に理解していただく。 ②教員の配置といった課題もあるが、少人数指導や補習の実施には継続的かつ組織的に取り組んで行く。 ③各教科において、授業と連動して学力向上の成果が上がるような課題を工夫する。 ④進路指導部を中心に、「さらなる高み」をめざしてチャレンジする志を育むとともに、その具現化を目指して学力向上に取り組む。
生徒指導	①全体的に生徒はきちんとした学校生活を送っており、安心して学校に託すことができる。 ②一部生徒に登下校時の服装の乱れ等がみられ、学校の評価を落とす懸念がある。	①良好な評価に慢心することなく、きめ細かな指導を継続していく。 ②登校指導期間中のみならず、日常的・組織的な生活指導に取り組む。
キャリア教育	①看護・医療系ガイダンス、公務員ガイダンス等の進路ガイダンスが豊富に実施されている。今後もさらに一層、キャリア教育の充実に邁進してほしい。 ②学校としての「進路通信」の発行を望む。	①現状に慢心することなく、生徒のニーズを把握することに努め、それに応える指導に工夫を凝らす。 ②進路指導部として、定期的な「進路通信」の発行を検討して行く。各学年でも進路に関する情報の発信に努める。
特別活動	①リーダー性・自主性を育むために教員が腐心している一方で、生徒の依存心が過度に高まることが懸念される。 ②今後も現在の学校行事を継続してほしい。 ③学校行事については、地域の方々にもお知らせし、積極的に参加していただけるよう工夫してほしい。	①特に1学年担当教員が、生徒に対して手をかけすぎてしまう傾向が見られるので、速やかな自立を促すような指導に留意する。 ②学校行事は精選を図る一方で、教育的効果の高いものについては、さらに改善すべき点を改善して発展させて行く。 ③回覧板を活用するなど、学校行事に関する情報をきめ細かに地域へ発信するよう努める。
特色ある教育活動	①生徒から評価の高い、国際理解セミナーをさらに充実させてほしい。 ②「千葉北高校中期（5年間）将来計画」にうたわれている「人間的に一流」の生徒を育成することを目指し、教育活動を展開してほしい。	①講師の人選にはさらに工夫を凝らし、生徒の国際理解に役立てていく。 ②「志を高く掲げ、文武両道を目指すとともに、心豊かな逞しい生徒」を育てるために、学校としての教育機能を全校体制で高めていく。またその具現化を目指し、「確かな進学校」、「文武両道の学校」及び「家庭・地域から信頼される学校」づくりに邁進する。